

読書の定義に関する現代人の意識構造

—学生と司書へのアンケート調査から—

山 本 昭 和

はじめに

読書活動、読書年、朝の読書、読書離れなど、読書を含む言葉が社会に氾濫している。しかし、現代人にとって読書とはどのような行為を指すのかは明らかではない。そのために、「読書」という言葉を聞いたときに、人びとが抱くイメージには幅がある。

たとえば、ファッション雑誌を読むことは読書か、百科事典を引くことは読書か、携帯電話で小説を読むことは読書かといったことは、人によって考えの分かれるところであろう。こうした考えの違いを意識しておかないと、読書についての共通の論議ができない¹⁾。

そこで、「読書」についての定義が、集団によってどのように違っているのかを調査してみた。比較の対象としたのは、司書課程履修中の女子学生と、現職の司書である。調査の過程では、それぞれの集団の共有する読書観がどのような構造をしているのかを分析した。

1. 調査内容

(1) 調査項目 別紙

2つの集団に対して、同一内容のアンケート調査を実施した。アンケートでは、表1のカテゴリー欄に記載してある「小説」「絵本」「漫画」な

ど26のカテゴリーについて、それらを読んだり見たりすることが読書に当たるかどうかを尋ねた。読書に当たると思うカテゴリーには○をつけ、そう思わないなら何にもつけないという質問であった。

調査対象の集団は下記の2つである。

①女子学生 (211名、年齢19～21)

②現職の司書 (39名、年齢20代10・30代17・40代9・50代3名、大半が女性)

①は椋山女学園大学の司書課程履修中の学生であり、女子学生のうちでも、「読書」に対して一定の親近感を持つ集団であるといえる²⁾。②は自主勉強会に定期的に参加している愛知県下の司書であり、司書のうちでも仕事に積極的な集団である。

2. 女子学生による「読書の定義」

(1) 基準はストーリー性と重厚性

表1では、「読書だと思う」率の高い順(○をつけた人の多い順)にカテゴリーを並べてある。「小説・伝記」「絵本」「ライトノベル」などの比率が高く、「カタログ(通販など)」「辞書・事典(電子媒体)」「パンフレット」などの比率が低い。ただし、この表だけでは、どのような基準によって学生がカテゴリーを区別しているのかは判然としない³⁾。

そこで、学生の意識における26カテゴリーの類似度を調べることにした。数量化理論Ⅲ類の手法を使ってデータを分析すると、統計プログラム

表1 読書だと思うもの（複数回答可）

カテゴリー	(人)	(%)
小説・伝記	211	100.0
絵本	160	75.8
ライトノベル	145	68.7
学術雑誌	138	65.4
携帯小説（書籍）	122	57.8
俳句集・和歌集	85	40.3
落語集（紙媒体）	82	38.9
漫画	80	37.9
新聞	79	37.4
PC小説	76	36.0
教科・参考書	71	33.6
携帯小説（モバイル）	67	31.8
図鑑	46	21.8
料理のレシピ本	34	16.1
ファッション雑誌	25	11.8
電子媒体漫画（PC、携帯ともに）	25	11.8
マニュアル・説明書	24	11.4
辞書・事典（紙媒体）	23	10.9
写真集	22	10.4
新聞・雑誌の広告・投書・占いなど	20	9.5
朗読テープ（耳で聞く物語もの）	13	6.2
サウンドノベルゲーム	13	6.2
フリーペーパー（求人誌や情報誌）	9	4.3
パンフレット	8	3.8
辞書・事典（電子媒体・Wikipなど）	6	2.8
カタログ（通販など）	6	2.8
回答者数／平均	211	29.0

からは、0.22（第1軸）、0.19（第2軸）、0.14（第3軸）の固有値が得られた。そのうち比較的值の大きい2つの固有値について、対応するカテゴリーデータを大きい順に並べたのが表2である。

第1軸をみると、カタログや辞書（電子も紙も）などのポイントが低く、携帯小説や小説・伝記な

どのポイントが低いという特徴がある。そのため、この第1軸は、〈ストーリー性〉の強弱を表わしているものと考えられる。つまり、第1軸のポイントが低いものほど、「部分的に調べたり眺めたりするのではなく、ストーリー性が顕著で全体を読み通すもの」とのイメージが強いものであることを表すものと考えられる。

第2軸では、パンフレット・カタログ・携帯小説（モバイル）のポイントが高く、朗読テープ・落語集・俳句集・絵本・学術雑誌などのポイントが低いという特徴がある。このため、この第2軸は、〈重厚性〉のイメージの強弱を表わす軸であると推測できる。つまり、第2軸のポイントが低いものほど、「気軽にページをめくったり眺めたりするものではなく、気持ちを集中して対応しなければならない重厚なもの」とのイメージが強いことを表わすものと考えられる。

図1は、〈第1軸・ストーリー性〉と〈第2軸・重厚性〉について、各カテゴリーの位置をプロットしたものである。読書かどうかという観点からみたとき、近接するカテゴリーほど、学生にとっては似たイメージのものである。4つの囲みは、第1軸と第2軸のカテゴリーデータに対してクラスタ分析（ウォード法）を行ない、全カテゴリーをA～Dの4つのグループに分割したものである。

各グループの特徴は「Aグループ：ストーリー性が目立つもの」「Bグループ：情報さえ入手できればそれでよいもの」「Cグループ：情報を入手するためのものであるが、あまり軽々しくはないもの」「Dグループ：読書かどうかという観点からすると穏当なもの」である。学生は、穏当なDグループを中核にして、「ストーリー性」「重厚性」の2軸のどの辺りのグループまでを読書として許容できるかを、各自の嗜好や価値観に従って判断していることがわかる。

表2 数量化したカテゴリー値

カテゴリー	第1軸	カテゴリー	第2軸
カタログなど	4.56	パンフレット	4.24
辞書事典(電子・wiki)	4.46	カタログなど	3.29
パンフレット	3.10	フリーペーパー	2.89
フリーペーパー	2.70	携帯小説(モバイル)	2.22
辞書事典(紙)	2.51	辞書事典(電子・wiki)	1.81
写真集	2.30	PC小説	1.80
ファッション雑誌	1.95	電子媒体漫画	1.65
マニュアル・説明書	1.81	マニュアル・説明書	1.28
料理のレシピ本	1.64	サウンドノベルゲーム	1.16
図鑑	1.59	ファッション雑誌	0.98
教科書・参考書	0.92	料理のレシピ本	0.73
広告占い	0.82	携帯小説(書籍)	0.66
落語集	0.30	広告占い	0.63
漫画	0.21	新聞	0.37
俳句集・和歌集	0.04	漫画	0.10
朗読テープ	0.03	教科書・参考書	-0.19
新聞	0.02	写真集	-0.24
学術雑誌	-0.14	小説・伝記	-0.50
絵本	-0.19	辞書事典(紙)	-0.50
ライトノベル	-0.43	図鑑	-0.59
小説・伝記	-0.54	学術雑誌	-0.61
電子媒体漫画	-0.78	ライトノベル	-0.68
携帯小説(書籍)	-1.02	絵本	-0.69
PC小説	-1.17	俳句集・和歌集	-0.99
携帯小説(モバイル)	-1.17	落語集	-1.02
サウンドノベルゲーム	-1.82	朗読テープ	-1.49
固有値	0.22	固有値	0.19

(2) 重厚派・情報派・文学派・穏健派

こうした嗜好・価値観のパターを把握するために、サンプル(学生)のグループ分けを試みる。図2は、〈第1軸・ストーリー性〉と〈第2軸・重厚性〉について、サンプルデータ(各学生のデータ)をプロットしたものである。サンプルデータ

の位置に近いほど似た回答をした学生であることを表わしている。

4つの囲みは、第1軸と第2軸のサンプルデータに対してクラスター分析を行ない、全サンプルを4つのグループに分割したものである。各グループに属するサンプル(学生)の特徴を大まか

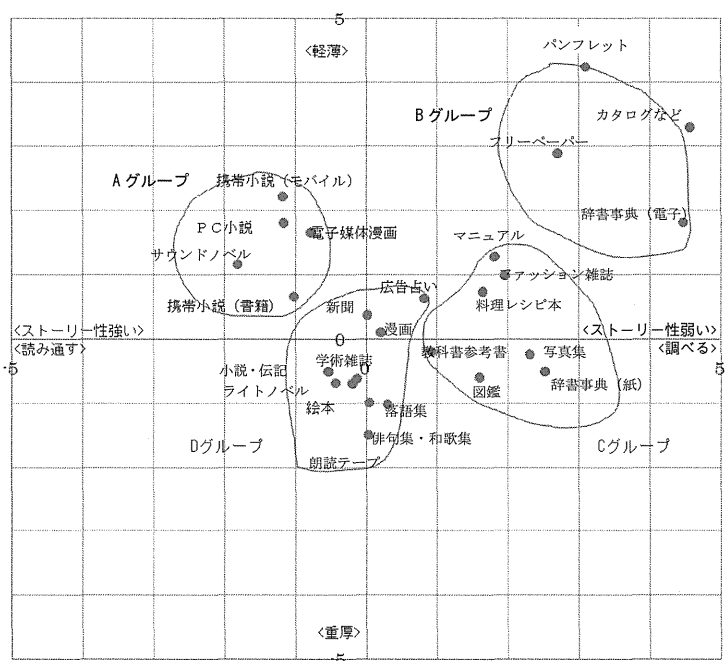


図1 カテゴリーの類似度 (学生)

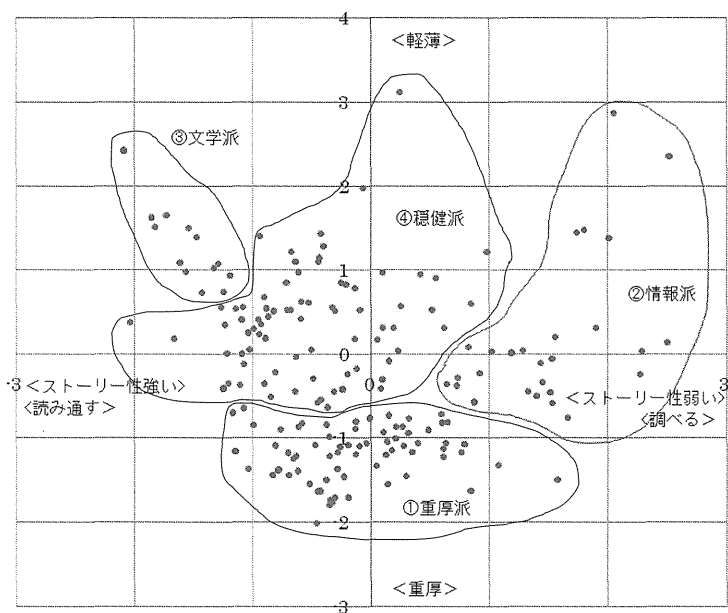


図2 サンプルの類似度 (学生)

に述べると次のとおりである。

①重厚派 (87名・41%) : 読書とは軽薄ではなく重厚なものだと思っているグループ。カタログやパンフレット類は無論のこと、携帯小説 (モバイル・書籍とも) やPC小説も、気軽であるがゆえに読書とは認めない。

②情報派 (27名・13%) : ストーリー性を意識しないグループであり、読むことによって何らかの情報が入手できるものが読書だと考えるグループ。料理レシピ・辞書類はもとより、パンフレット・マニュアルなども読書と認める人がいる。ストーリー性は問題としないので、グループのなかでも重厚派に近い人の多くは、携帯小説 (モバイル) は読書ではないと考えている。

③文学派 (17名・8%) : ストーリー性のあるものを読み通すことが読書だと考えるグループ。パンフレット・マニュアル・料理レシピなどはもとより、辞書類やファッション誌を読むことも読書とは認めない。さらに、絵本や漫画でさえも、読書ではないと思っている人が多い。一方、携帯小説 (モバイル・書籍とも) やPC小説については、グループのほぼ全員が読書だと考えている。

④穏健派 (80名・38%) : あまりに気軽すぎるのも読書とは思わないが、ストーリー性のある文学作品だけが読書だとも思わない穏健グループ。

3. 司書と女子学生の違い

(1) 司書は寛容

26のカテゴリーについて、読書と思うかどうかの調査結果を、学生と司書で比較したものが表3である。読書だと思う率は、ほとんど全てのカテゴリーで司書の方が高い。全カテゴリーの平均をとると、女子学生 29.0% に対し司書 46.0% である。司書の方が、読書の定義に対して全般的に寛容であるといえる。

逆にいえば、女子学生の方は読書の定義につい

ての基準が厳しい。これは、自己の読書観 (定義) が未確立なために、あるいは他者の読書観 (定義) に接する機会がまだ少ないために、教師・保護者などから提示され続けてきた狭い定義を超えることに躊躇しているものと推測できる。

一方、読書だと思う率で学生の方が高いのは、「学術雑誌」「教科書・参考書」「新聞雑誌の広告・投書占いなど」である。学生にとっては、「教科書・参考書」「新聞雑誌の広告・投書占いなど」は身近であるせいで、逆に「学術雑誌」は縁遠くて重厚感があるせいで、それらを読書と思う率が高いということが想定できる。ただしこちらの差は統計的に有意なものではない。

(2) 司書の基準もストーリー性と重厚性

司書のデータについても、数量化理論Ⅲ類の手法を使って学生と同様の分析をした。0.21 (第1軸)、0.13 (第2軸)、0.10 (第3軸) の固有値が得られた。値の大きい2つの固有値についてのカテゴリーデータは表4のとおりである。カテゴリーの順位が若干違っているものの、学生の場合 (表2) と基本的によく似ていて、第1軸は〈ストーリー性〉、第2軸は〈重厚性〉を表わしているものと考えられる。

第1軸内の順位において学生 (表2) と司書 (表4) で順位が大きく異なるのは、「新聞や雑誌の広告、投書、占いなど」「サウンドノベルゲーム」である。どちらも司書の方 (表4) で順位が低い。これらについては、ストーリー性が高く読み通すもののイメージを、学生の方が司書よりも強く持っていることが想定できる。

第2軸内の順位において学生と司書で順位が大きく異なるのは「パンフレット」「新聞」「図鑑」である。これも司書の方で順位が低い。司書は、これらのカテゴリーの重要性を日常的に実感しているために、学生のイメージするほど気軽なものとは思えないことが理由と思われる。

図3は、〈第1軸・ストーリー性〉と〈第2軸・

表3 読書だと思うもの（女子学生と司書）

	女子学生 (%)	司 書 (%)	片側p値	判定
小説・伝記	100	100	—	—
ライトノベル	68.7	92.3	0.001	**
絵本	75.8	84.6	0.115	
俳句集・和歌集	40.3	82.1	0.000	**
落語集（紙媒体）	38.9	76.9	0.000	**
携帯小説（書籍）	57.8	74.4	0.026	
学術雑誌	65.4	61.5	0.321	
PC小説	36.0	61.5	0.001	**
携帯小説（モバイル）	31.8	59.0	0.001	**
漫画	37.9	56.4	0.015	*
図鑑	21.8	48.7	0.000	**
新聞	37.4	48.7	0.093	
ファッション雑誌	11.8	46.2	0.000	**
写真集	10.4	46.2	0.000	**
辞書・事典（紙媒体）	10.9	38.5	0.000	**
電子媒体漫画	11.8	35.9	0.000	**
料理のレシピ本	16.1	28.2	0.035	
教科・参考書	33.6	25.6	0.163	
朗読テープ	6.2	23.1	0.000	**
パンフレット	3.8	23.1	0.000	**
辞書・事典（電子媒体・Wikiも）	2.8	23.1	0.000	**
フリーペーパー	4.3	17.9	0.001	**
マニュアル・説明書	11.4	12.8	0.398	
サウンドノベルゲーム	6.2	12.8	0.070	
新聞・雑誌の広告・投書・占いなど	9.5	7.7	0.361	
カタログ（通販など）	2.8	7.7	0.068	
平 均	29.0	46.0	31.631	—
回答者数	211	39	—	—

*p<.05 **p<.01

表4 数量化したカテゴリー値(司書)

カテゴリー	第1軸	カテゴリー	第2軸
カタログなど	3.36	カタログなど	2.43
広告占い	3.20	フリーペーパー	2.08
マニュアル・説明書	2.68	マニュアル・説明書	1.93
フリーペーパー	1.92	携帯小説(モバイル)	1.88
教科書・参考書	1.79	辞書事典(電子・wiki)	1.66
辞書事典(電子・wiki)	1.61	パンフレット	1.50
パンフレット	1.58	PC小説	1.33
辞書事典(紙)	1.31	教科書・参考書	1.32
料理のレシピ本	1.25	電子媒体漫画	1.21
ファッション雑誌	0.83	広告占い	1.06
図鑑	0.72	サウンドノベルゲーム	1.03
新聞	0.64	携帯小説(書籍)	0.75
サウンドノベルゲーム	0.55	料理のレシピ本	0.55
朗読テープ	0.54	小説・伝記	-0.25
写真集	0.43	ライトノベル	-0.25
学術雑誌	0.37	落語集	-0.39
漫画	0.18	学術雑誌	-0.48
落語集	-0.32	ファッション雑誌	-0.62
俳句集・和歌集	-0.42	俳句集・和歌集	-0.67
絵本	-0.43	真集	-0.70
電子媒体漫画	-0.48	漫画	-0.73
ライトノベル	-0.71	絵本	-0.78
小説・伝記	-0.94	朗読テープ	-0.81
携帯小説(書籍)	-0.96	辞書事典(紙)	-0.86
PC小説	-1.13	新聞	-1.29
携帯小説(モバイル)	-1.48	図鑑	-1.44
固有値	0.213	固有値	0.128

重厚性)について、各カテゴリーの位置関係を図で表したものである。近接するカテゴリーほど司書にとって似たイメージのものである。第1軸と第2軸のカテゴリーデータに対してクラスター分析を行ない、26のカテゴリーを4つのグループに分割したのがA～Dの囲みである。

26カテゴリーに対する司書のイメージを総合すると、学生と同様に「Aグループ:ストーリー性が目立つもの」「Bグループ:情報さえ入手できればそれでよいもの」「Cグループ:情報を入手するためのものであるが、あまり軽々しくないもの」「Dグループ:読書かどうかという観点からする

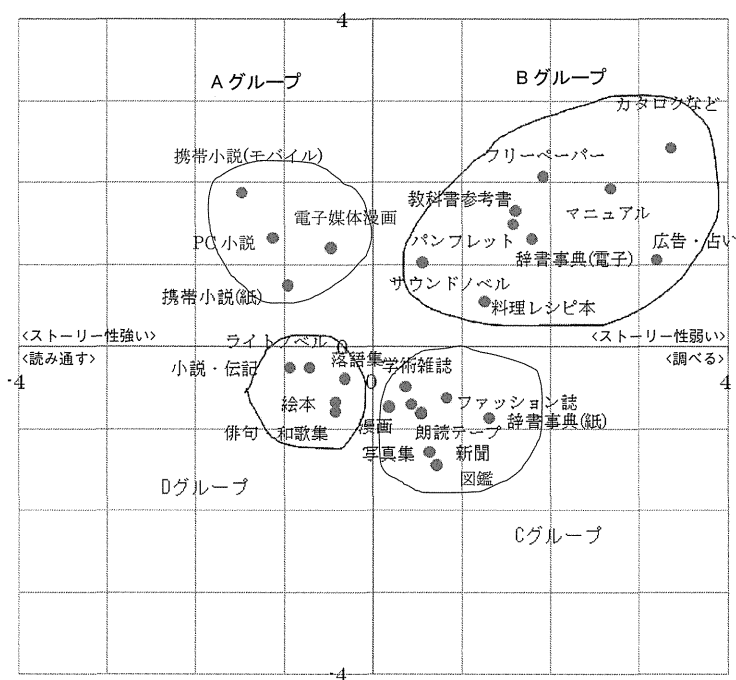


図3 カテゴリーの類似度（司書）

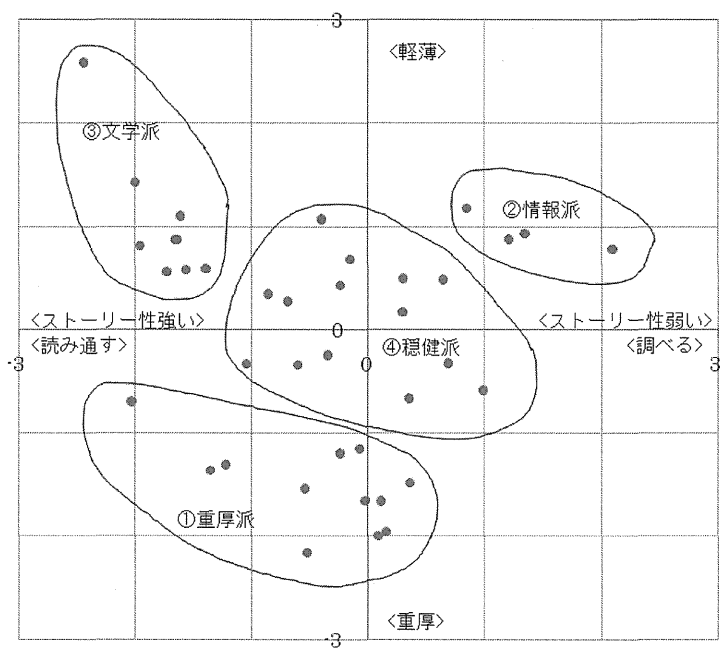


図4 サンプルの類似度（司書）

と穏当なもの」の4つのグループに分けられる。学生の場合(図1)と異なるのは、Bグループに属するカテゴリー数が増えたことと、Cグループが重厚性の高い位置に移動していることである。

司書の方が、読書の定義に関しては学生よりも寛容ではあることは確かである。しかしこの分析から、司書も学生と同様に、「ストーリー性」「重厚性」の2軸を基準としながら、穏当なDグループを中核に、どの辺りまでを読書として許容できるかを、各自の嗜好・価値観に従って判断していることがわかる。

(3) 司書も重厚派・情報派・文学派・穏健派

図4は、〈第1軸・ストーリー性〉と〈第2軸・重厚性〉について、サンプルデータ(司書各人のデータ)をプロットしたものである。サンプルデータの位置が近いほど似た回答をした司書であることを表わしている。

4つの囲みは、第1軸と第2軸のサンプルデータに対して、学生の場合と同じようにクラスター分析を行ない、全サンプルを4つのグループに分割したものである。4グループは、学生の場合とほぼ同じタイプであった。学生の場合とほとんど重複するが、各グループに属するサンプル(各司書)の特徴を述べると以下である。

①重厚派(12名・31%)：読書とは軽薄ではなく重厚なものと思っているグループ。カタログやパンフレット類は無論のこと、携帯小説(モバイル)やPC小説や広告占いなども、気軽であるがゆえに読書とは認めない。

②情報派(4名・10%)：媒体のストーリー性を意識しないグループであり、読むことによって何らかの情報が入手できるものが読書だと考えるグループ。ほとんどのものを読書だと考えるので、4名のうち3名までは、26のうちの22以上のカテゴリーに○をつけている。

③文学派(9名・23%)：ストーリー性がある

読み通すことこそが読書だと考えるグループ。パンフレット・マニュアル・料理レシピなどはもとより、辞書類やファッション誌であっても読書とは認めない。絵本や漫画でさえも、読書ではないと思っている人が多い。一方、携帯小説(モバイル・書籍とも)・PC小説については、グループのほぼ全員が読書だと考えている。

④穏健派(14名・36%)：あまりに気軽すぎるのも読書とは思わないが、ストーリー性のある文学作品だけが読書だとも思わない穏健グループ。

学生の場合(図2)と異なるのは、③穏健派の率が高くなり、隣接する②情報派の率が減少していることである。また①重厚派がストーリー性のやや高い位置に移動していることも異なっている。

まとめ

女子学生と司書を対象に、読書の定義についての調査を行なった。読書かどうかを判断する基準については、女子学生・司書ともに「ストーリー性」と「重厚性」の2つが基準となっていた。中央部に位置する穏当なカテゴリーを中心に、2軸の左右高低のどの辺りまでを読書と認めるかを、各自の嗜好や価値観に従いながら判断するというモデルが提示できた。このモデルは、女子学生と司書に共通であることから、現代人の「読書の定義」に関する意識構造は「ストーリー性」と「重厚性」を軸として形成されていることが推測できる⁴⁾。

また、読書の定義については、学生よりも司書の方が寛容であることもわかった。司書の方が判断に寛容なことの理由としては、集団の年齢が学生よりも高いことと、司書という職業の特性という2つの要因が考えられる。こうした要因を明確化させるためには、女子学生と司書以外の集団へ対象を広げた調査が必要である。そうした大人を

対象とする幅広い調査に加えて、児童・生徒を対象とする調査を行えば、2軸からなる読書観の形成過程が明らかになると思われる⁵⁾。今後の課題として興味深い。

謝 辞

本稿のもとになったアンケート項目は、森波千暁氏が平成21年度卒業研究用に考案したものである。森波氏の下承のもと、同研究のデータの一部を利用させていただいた。また「なごやレファレンス探検隊」の司書のみなさまには、学生と同じアンケート項目に回答していただいた。記して感謝します。

注

- 1) 「様々なメディアに囲まれた現代の成人、特にインターネットなどの新しいメディアを享受していると思われる大学生は何を『読書』『読む』と捉えているのだろうか」という小森の問題意識と同じである。(小森、2009、p 35)
- 2) ただし、司書課程履修中の学生のうち36%までは、本を読むことが好きではなかったとの報告もある。(児玉、2005、p 51)
- 3) 小森は大学生を対象に、長編小説・新聞・ケータイ小説・辞書・パンフレット・時刻表など36カテゴリーについて、「読書」という言葉の当てはまりよさを5段階評価で尋ねる調査している。結果としては本稿(表1)と似たカテゴリー順位が得られ、「読書」という言葉に当てはまりやすいカテゴリーには「文字が主体であること、ストーリー性や作者の主張が読み取れるものが多い」と結論づけている。(小森、2009、p 39)
- 4) ただし、司書(大半は女性)と女子学生という限られた対象からの結果なので、このモデルは女性にだけ該当するといった可能性は否定できない。読書に対するイメージの男女差については、女子の方が「読書好感度が高く、読書をより大きな、変化に富んだものと考えている」という守の因子分析調査が参考になる。(守、1986、p 80)
- 5) 読書の意義観の発達過程については、秋田・無藤による分析が詳しい。両氏は、読書の意義にかかわる主成分として「空想・知識」「暇・気分転換」「成績・賞讃」の3つをとりあげ、「空想・知識」のポイントは学年とともに高くなるが、「成績・賞讃」は逆に下がることを示している。(秋田・無藤、1993、p 466)

参考文献

- 1) 秋田喜代子・無藤隆「読書に対する概念の発達の検討：意義・評価・感情と行動の関連性」『教育心理学研究』41(4)、1993、p 462-469。

- 2) 児玉孝乃「司書資格受講生の読書意識調査2005」『館灯』44、2005、p 50-59。
- 3) 小森伸子「大学生の『読書』概念に関する予備的検討」『摂南大学教育学研究』5、2009、p 33-44。
- 4) 玉瀬友美「読書に関する考え方および読書する人に関する考え方とイメージに及ぼす絵本の読み聞かせ経験の効果—幼児保育専攻学生を対象として」『読書科学』51(3・4)、2009、p 119-124。
- 5) 守一雄「大学生の読書に対するイメージ—短期間の読書課題によりイメージはどう変化したか」『信州大学教育学部紀要』57、1986、p 75-82。
- 6) 森波千暁『「読書のイメージ」に関する研究—あなたにとって読書とはどこからどこまでを指しますか』(平成21年度相山女学園大学文化情報学部卒業論文)

やまもと・あきかず / 文化情報学部准教授
E-mail : a-yamamoto@sugiyama-u.ac.jp